

市立函館博物館報サラニップ

SARANIP

No.45 2006.3.31

平成17年度特別企画展報告



新たに函館市となった戸井地区（戸井貝塚・浜町A遺跡他）や南茅部地区（川汲A遺跡・大船C遺跡他）から出土した遺物が展示され、観覧者は様々な埋蔵文化財に興味深々で見入っていました。



展示室中央には企画展の目玉となる著保内野遺跡から出土した国指定中空土偶と戸井貝塚出土の骨角器が展示され話題を呼びました。

—— あたらしい函館の文化財 ——

平成16年12月1日に函館市と戸井町・恵山町・楡法華村・南茅部町の1市3町1村が合併したのを記念して開催しました。6月7日（火）から8月21日（日）の期間内に3,376名の方にご観覧いただきました。

合併により市の面積が大きくなって、同じ市内でわからないことが多くなったと感じたり、地域のつながりが希薄にうつったりしても、地域の交流や暮らしは、昔から同じ生活圏として活発に行われていたと考えられます。今回は、縄文時代の資料を中心に紹介することで、地域間の古代のつながりを見ていただきました。

南茅部は早期から後期までの資料を、楡法華は前期の資料、恵山は後期から続縄文の資料、戸井は早期から晩期までの、各地の資料の一部を展示しました。

国指定重要文化財の中空土偶を、期間後半には実物を2週間程でしたが展示し、北海道指定の有形文化財の尖底深鉢形土器等、函館市指定文化財の恵山貝塚出土遺物なども展示しました。また、戸井貝塚・石倉貝塚出土の舟形土製品、恵山貝塚出土のカメやシャチなどの動物をモチーフにした骨角器や土製品も展示しました。

これに合わせて、遺跡見学会、土器づくり、釣り針作りなどの博物館講座も行いました。たくさんの市民に参加していただき、盛会裡に終了できました。

博物館本館で展示できなかった遺跡からの出土品が、各地区にまだまだ多く所蔵され、また郷土館などで展示されています。暖かくなって雪が解けるこれからの季節、各地区にお出かけになる機会も増えると思います。その際には各展示館もぜひ訪れ、資料をご観覧ください。

（中村公宣）

平成17年度特別展報告

特別展 幕臣達の明治維新 - 箱館戦争始末記 -



展覧会ポスター



1階中央には 松平容保公が戊辰戦争降伏会見の際に使用した泣血織が展示されました。



明治2年北海道余市へと入植した会津藩士関係の資料です。入植の際の記録の他、当時使用された鉢金や箱膳、祝い膳、日新館で子弟の教育に使われた教科書等が展示されました。

今年度の特別展は7月23日から9月25日までの62日間開催し、期間中有料・無料あわせて26,370名の方々にご観覧いただきました。

今年は箱館が開港してから150年となりました。特別展ではその開港をきっかけに、幕臣である箱館奉行などが関わった五稜郭の築造や箱館港に築かれた弁天岬台場の紹介からはじまり、幕府海軍副総裁榎本武揚をはじめとする幕臣達とそれに関係した藩士達を取り上げた戊辰戦争・箱館戦争、そして戊辰戦争後その行き方を大きく変えた幕臣達を取り上げました。

「弁天岬台場と五稜郭の築造」のコーナーではペリー一艦隊来航の様子や描いた資料、弁天岬台場の古写真や五稜郭の図面などを展示しました。戊辰戦争の決着と会津藩」のコーナーでは、会津藩が降伏する様子を描いた錦絵や会津藩主松平容保が降伏の際に使用した敷物、新政府軍兵士が着用していた赤熊という被り物などを展示しました。箱館戦争の終結と降伏者たち」のコーナーでは、幕臣小杉雅之進が描いた麦藁録附図などを中心に戦争の顛末を展示しました。「降伏と赦免・新たな道」のコーナーでは、会津藩の斗南への移

住や余市への移住を取り上げ、特に余市へ移住した藩士達が残した道具などを展示しました。また、会津藩士と新撰組との関わりを物語る資料として、会津藩士が持っていた土方歳三の写真をパネルで展示しました。

「武士としての誇りをかけて北海道開拓を選んだ白石藩」のコーナーでは、現在の札幌市白石区の地名にもなっている白石藩の移住を当時の文書を中心に展示しました。「開拓使の設置と北海道」のコーナーでは、開拓の基本となる道路工事について古写真や絵画資料で、さらに旧幕臣や旧藩士などを募った屯田兵について展示しました。「明治期の函館」のコーナーでは、戦後復興で変わる街並みを写した古写真や五稜郭で行われた採氷事業について展示しました。その他、勝海舟・15代総軍慶喜の医師高松凌雲・咸臨丸の蒸気方小杉雅之進・彰義隊隊士寺澤親太郎・新撰組隊士中島登といった幕臣達についても紹介しました。

(保科智治)

平成17年度巡回展報告「箱館開港とペリー」

今年度当館では珍しい巡回展を開催しました。市役所本庁舎1階市民ホールを会場に6月27日(月)から7月8日(金)までおこなわれました、市役所を訪れた人々が、歩みを止めあるいはペースを落としてご覧いただきました。

この巡回展は、昨年行った特別企画展「ペリー箱館来航150年」に続くもので、箱館開港150年を迎えることを記念しておこなわれた者です。巡回展の基本となったのは、マサチューセッツ工科大学がおこなった「黒船とサムライ」展の展示物を中心としたもので、東京大学大学院総合文化研究科附属アメリカ太平洋地域研究センターが中心となり東京大学・下田市・長崎大学・函館市・横須賀市を巡回したものです。

内容のコンセプトはそのコーナータイトル「東を向いて」「西を向いて」に表れているように、アメリカ側からの視点による記録と日本側からの視点による記録を対比させ、日米双方の視覚の差を示して関心がどこにあったのかを提示するものでした。そこから日米の公式な出会いの原点を見つめ直し、それ以後のそしてこれからの日米関係をも考える糸口になればという意味も込められていました。(保科智治)



市役所一階ロビーで行われたこの企画展は多くの市民に観覧頂きました。

市立函館博物館友の会活動報告

友の会公式サイトで 「市立函館博物館研究紀要」の 公開をはじめました

市立函館博物館友の会公式ホームページは、平成17年3月から公開をはじめました。

昨年末より新たに、「市立函館博物館友の会会報」の掲載を開始したほか、博物館の許可を得て、支援活動の一環として「市立函館博物館研究紀要」の公開を開始しました。その他、博物館及び友の会主催の各種イベント情報の広報も行っています。

会報は、平成18年2月現在で、一部を暫定的に公開しています。学識経験者等による寄稿、友の会主催の各種イベント等の報告が行われており、道南の歴史・文化を知る貴重な情報源となります。

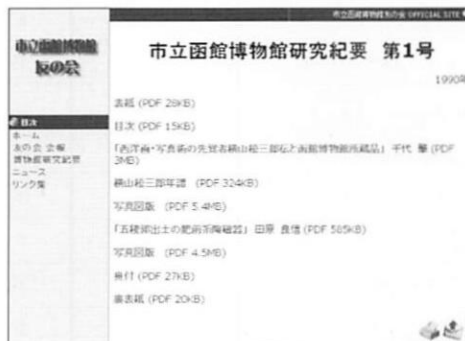
市立函館博物館研究紀要(最新号は第15号)は、専門的な情報源として毎年発行されており、現在創刊号～第4号までを公開しております。

今後とも順次、公開を進めていきますので、どうぞご覧下さい。

友の会会員(サイト管理者) 村田 貴一
URL: <http://hakodate-museum.donan.info/>



博物館友の会トップページ画面



友の会ホームページ画面2
研究紀要が掲載されています。
ここをクリックすると各論文を
見ることが出来ます。

平成18年度開催予定特別展 概要紹介

平成18年度特別展

「北の守りと外国－蝦夷地に築かれた城－」

五稜郭分館を会場に開催する平成18年度特別展は「北の守りと外国－蝦夷地に築かれた城－」と題し、近世後期から幕末にかけて築かれた城や陣屋に焦点をあてた展示とする予定です。

ロシアの南下、箱館の開港と蝦夷地は対外関係の動きに大きく影響されます。そのような中で蝦夷地の警備を目的に東北諸藩が蝦夷地に陣屋を築き、開港に際しては幕府が箱館に五稜郭・弁天岬台場を築き、松前藩も新たな城の築造をおこないました。

展示資料は、発掘調査などで出土した遺物などを中心に、蝦夷地の対外関係を示す文献・絵画資料もあわせて紹介したいと考えています。五稜郭内の箱館奉行所の復元も間近となり、その調査過程で新たに分かってきた新事実や新資料なども紹介していく予定です。

(保科智治)

期間：平成18年7月25日(火)～9月18日(月)まで

会場：市立函館博物館五稜郭分館

平成18年度特別企画展

「没後20年 梁川剛一」

明治35年(1902)に函館で生まれた梁川剛一は、函館山の麓に立つ高田屋嘉兵衛像を制作した彫刻家です。また、昭和初期から少年少女向け雑誌で挿絵を描き始め、特に『少年倶楽部』連載の「少年探偵団」や講談社の絵本などで人気を博しました。昭和20年(1945)に疎開した札幌でも、絵本や紙芝居などの出版を精力的に行っています。その後東京に戻り、数多くの雑誌、絵本、全集で挿絵や装幀を手がけ、昭和61年(1986)に死去しました。没後20年を迎える今年、梁川剛一を故郷函館で初めて本格的に回顧紹介することになりました。この機会に彫刻の原型や色鮮やかな挿絵原画で梁川剛一の幅広い活動を知るとともに懐かしい昭和を振り返っていただければ幸いです。

(霜村紀子)

期間：平成18年6月20日(火)～8月20日(日)まで

会場：市立函館博物館本館

平成17年度博物館講座開催表

ワークショップ(通年講座)

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	自然観察入門講座－自然の物知り博士を目指そう－	4月17日(日) ～平成18年3月まで年12回	42
2	四季の星空観測講座－函館・四季の夜空観測－	5月27日(金) ～平成18年3月まで	10

単 講 座

No.	講座名	開催期間	参加者数
1	地域の身近な自然を調べる「春の渡り鳥を観察しよう」	5月7日(土)	中止
2	地域の身近な自然を調べる「タンポポの分布を調べてみよう」	5月14日(土)	12
3	天体観測シリーズ「春の星座観測」	5月27日(金)	7
4	地域の身近な自然を調べる「砂浜の漂着物を拾ってみよう」	5月28日(土)	8
5	自由研究「自然のこと 何でも調べてみよう1」	6月11日(土)	1
6	岩内美術館ツアー －木田金次郎とピカソの版画をめぐる旅－	6月19日(日)	34
7	本館展示解説セミナー特別企画展 「あたらしい函館の文化財－縄文時代－」	6月26日(日)	14
8	天体観測シリーズ「七夕の星を見てみよう」	7月8日(金)	18
9	地域の身近な自然を調べる「イワツバメを観察してみよう」	7月9日(土)	2
10	自由研究「自然のこと 何でも調べてみよう2」	7月23日(土)	3
11	身近な自然を調べる(バスツアー) 「親子で行く今金、太古の旅」	7月24日(日)	5
12	夏休み自由研究「鉄道車両の仕組みとJR見学会」	7月27日(水)	43
13	親子でつくる「ベタベタアート」	7月30日(土)	17
14	遺跡見学と土器づくり	8月3日(水)	14

単 講 座

No.	講座名	開催期間	参加者数
15	夏休み自由研究 五稜郭探検隊	8月4日(木)	3
16	分館展示解説セミナー特別展 「幕臣達の明治維新－箱館戦争始末記－」(第1回)	8月5日(金)	12
17	夏休み自由研究「昔の道具を調べよう」	8月5日(金)	15
18	夏休み自由研究 「縄文体験－動物の骨で(釣り針)を作ろう」	8月6日(土)	19
19	夏休み自由研究 「博物館資料に触れてみよう 一大砲の弾は重いかな?」	8月10日(水)	3
20	遺跡めぐり	8月11日(木)	17
21	科学おもしろミニ講座「ドライアイスで遊ぼう」	8月11日(木)	21
22	自由研究「自然のこと 何でも調べてみよう3」	8月12日(金)	中止
23	分館展示解説セミナー特別展 「幕臣達の明治維新－箱館戦争始末記－」(第2回)	8月12日(金)	8
24	科学おもしろ講座「親子で学ぶ星の世界－星と星座」	8月20日(土) 21日(日)	2
25	天体観測シリーズ「秋の星座と中秋の名月観望会」	9月9日(金)	19
26	自然おもしろミニ講座「イカを科学する」	9月17日(土)	4
27	地域の身近な自然を調べる 「函館山に戻るカラスの様子を観察してみよう」	10月15日(土)	2
28	身近な自然を調べる「秋の渡り鳥を観察しよう」	10月29日(土)	2
29	自然おもしろミニ講座 「押し葉・押し花作り」(変更有)	11月12日(土)	12
30	冬休み自由研究「さし絵に挑戦!」(文学館と共催)	1月12日(木)	14
31	科学おもしろ講座 「もしも原子がみえたなら」(2日連続)	1月13日(金) 17日(火)	4
32	冬休み自由研究「音響機を鳴らしてみよう」	1月14日(土)	2
33	自然おもしろミニ講座「木の葉を描く」	2月18日(土)	3
34	「函館大火を知ろう」	3月25日(土)	－

平成17年度博物館講座報告

岩内美術館ツアー—木田金次郎とピカソの版画をめぐる旅—

平成17年6月19日（日）8時、参加者34名を乗せてバスは函館市役所前から岩内に向けて出発しました。車中では後志ミュージアムロードをビデオ上映し、今回見学する2館の見所を説明すると、参加者の気分は徐々に高まってきたようです。佐藤理夫学芸員によるブナの植生や地質の解説に耳を傾け車窓から自然観察をしながら、バスに揺られること3時間半、予定より早く岩内に到着しました。参加者は長旅もなんのその、昼食を素早く済ませると元気に町内に繰り出し、イベントや物産店をめぐり、土産の買い物を楽しみました。

さて、午後から美術館ツアー本番です。木田金次郎美術館は開館10周年を迎え、春の常設展「木田金次郎 新たな視点」を開催していました。これまでの調査研究に基づいた深い内容でした。参加者は岡部卓学芸員の細やかな説明によって理解を深め、岩内の自然と風土から生まれた木田金次郎の人と作

品を十分に堪能することができました。今まで訪れたことがある参加者もさらに深い感動を覚えたようでした。

荒井記念美術館では小澤資子学芸員が元気一杯に出迎えてくれました。館内にはピカソ美術館・西村計雄美術館・生れ出ずる悩み美術館があります。ピカソの版画コレクションなど知る人ぞ知る美術館で、今回のバスツアーを機に知ってほしい美術館としてご案内しました。見所が多く、隅々まで見学するには時間が足りません。次回はぜひ隣接するいわない高原ホテルに1泊して岩内を味わい、日本庭園を散歩し、ゆっくり見学したいという声が聞こえてきました。

駆け足の見学ではありましたが、各館の温かな歓待と学芸員の丁寧な説明に、参加者の大満足の表情が見て取れました。（霜村紀子）



木田金次郎と岩内大火の説明を聞く



ピカソの版画を見つめる参加者

講座報告「もしも原子が見えたなら」

科学おもしろ講座と題した4回目の「もしも原子が見えたなら」を1月13日と17日に分けて開催しました。この講座は、小学校の4年生以上を対象に、すべての物質の基本単位である原子・分子について、発泡スチロールを使い1億倍に拡大した模型を作ること、そのイメージを膨らませるイメージ検証実験です。科学者がどのように、原子・分子を想像したのかを目で見て確かめる側面があります。原子・分子を考えることは難しいと思われるのか、参加者は4名と少なかったのですが、参加した子どもたちは、一様に「たいへん楽しかった」という評価とともに、「原子や分子のもけい作ってみたり、絵を考えて、書いてみたりして、とても勉強になりました。」「わかりやすい。く色でくべつしているから。くそれと同時に覚えやすい。くあと、もけい作りが楽しかった。」さらに、「もけいを作ったりクイズなど楽しいそうぞうなどできたから（楽しかった）です。」という感想を書িয়েくれました。（佐藤理夫）



目には見えない原子の仕組みを実際に模型を作って理解する。参加者はイメージが形になってゆくの次第に夢中になっていきます。

新分館長のご紹介



講座「ドライアイスで遊ぼう」中の

佐藤分館長

平成17年7月1日より分館長として五稜郭分館に勤務しています。学芸員として自然科学を担当している者として、「五稜郭築造と箱館戦争」に関する歴史分野の資料を収蔵・展示している分館での勤務は想定外でした。まして、管理部門は初めてなので、大いにとまどっているところです。「本館の自然科学はどうなるのか!？」と、心配する向きもありますが、学芸員としての仕事は今まで通りです。さしずめ二足のわらじといったところです。

今は、勝海舟と箱館との関わりに少なからず興味を持ち始めているところです。分館では今後、自然と歴史の融合と言っては聞こえが良いですが、それも一つの選択肢かなと、「どっちに転んでもしめた!」という気持ちで、勉強し直そうと考えています。

何せ、初めて尽くしの事柄が多く、分館や本館の職員の皆さんは言うに及ばず、周囲の方々にも迷惑をかけ通しです。長い目で見守って頂ければ有り難いです。

平成17年度新収蔵資料紹介

ここに掲載している新収蔵資料は、平成17年4月1日から平成18年1月31日までに受け入れたものです。

○寄贈資料

- | | |
|--------------------|-------|
| ・ 木造船船図 | 一式 |
| ・ 木造船関連図書 | 一式 |
| ・ 船大工道具 | 一式 |
| [函館市・函館市産業遺産研究会寄贈] | |
| ・ 比田井天来書「延年益壽」他 | 2件 2点 |
| [函館市・阿部 富勇氏寄贈] | |
| ・ 絵画 | 1件 1点 |
| [札幌市・下山 正八氏寄贈] | |
| ・ 絵馬 他 | 4件 4点 |
| [函館市・酒井 慶吾氏寄贈] | |
| ・ 点字印刷機 | 1件 1点 |
| [函館市・菊地 利春氏寄贈] | |
| ・ 絵画 | 1件 1点 |
| [札幌市・石原 誠氏寄贈] | |
| ・ 氷皿 他 | 1件 2点 |
| [函館市・木村 義治氏寄贈] | |



函館市指定文化財 川汲温泉薬王院殿奉納絵馬「馬の図」

ー誌名SARANIP(サラニップ)についてー
アイヌ語: シナの樹皮で編んだ袋。
博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。



博物館機構・職員構成

■市立函館博物館(本館)

〒040-0044 函館市青柳町17-1
Tel.0138-23-5480 Fax.0138-23-0831
<http://www.museum.hakodate.hokkaido.jp>
hakohaku@museum.hakodate.hokkaido.jp

館長	佐野 幸治
管理係長	山田 民夫
	伊部 則夫
	市村 栄子
	佐藤 恒一
学芸係長	中村 公宣(考古・民族)
学芸員	佐藤 智雄(歴史・民俗)
学芸員	霜村 紀子(美術)
	山本 泰子

◇函館の歴史や自然、生活道具、函館周辺の考古資料、美術資料を展示

■市立函館博物館五稜郭分館

〒040-0001 函館市五稜郭町44-2
Tel.0138-51-2548 Fax.0138-51-2146
分館長 佐藤 理夫(自然)
白幡 隆
富永 隆一

学芸員 保科 智治(歴史・民俗)

◇五稜郭、箱館戦争関係の問合せは分館まで

■郷土資料館(旧金森洋物店)

〒040-0053 函館市末広町19-15
Tel&Fax.0138-23-3095

◇金森洋物店、明治・大正期の生活道具を展示
詳しい資料の問合せは本館まで

SARANIPーサラニップーNo.45 2006.3.31発行

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

函館市青柳町17-1(函館公園内)

Tel.0138-23-5480 Fax.0138-23-0831